

公益財団法人 檜の芽会 御中

伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】	① 作成日	令和 6年 5月 5日	
② 法人・団体名	KADOMA 中学生勉強会		
③ 所在地	〒571-0030 大阪府門真市末広町 29-1 市民文化会館ルミエールホール		
④ 責任者氏名	八上 真也	(役職名等)	代表
⑤ 担当者氏名	八上 真也	(役職名等)	代表

【奨学活動の概要】

⑥助成交付決定番号	R05-003	⑦助成金額	50万円	⑧申請カテゴリー	B
⑨奨学活動名	すべての子どもたちが学べる『居場所』を！				
⑩主な実施場所	門真市民文化会館ルミエールホール				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式3-2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

活動内容：・学習支援活動：経済的理由等で塾に通えない生徒への学習機会補充

（大学生ボランティア1名に生徒1名～2名の個別指導）

・居場所支援活動：季節ごとにイベント行事を開催し、生徒同士や大学生との交流機会提供

活動期間：令和5年5月31日～令和6年3月21日

対象生徒：30名（応募数：57名）※中学1～3年生（市立はすはな中・第3中・第2中）

開催回数：全60回 毎週水曜日：43回（18：30～20：00）

隔週土曜日：15回（10：30～17：00 ※9月開講・中3生のみ対象）

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式3-2等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A：人)	平均時間 (B：時間)	活動量 (A x B)	備考・補足
中学生等	1,500	2.5h	3,750	水曜日（18:30～20:00）×43回（30人） 土曜日（10:30～17:00）×15回（15人）
高校生等	270	1.5h	405	水曜日（18:30～20:00）×43回（6人）
学習支援員等	900	2h	1,800	水曜日（18:30～20:00）×43回（18人） 土曜日（14:00～17:00）×15回（6人）
その他	60	2.5h	150	代表（活動日すべて参加）
合 計			6,105	

令和5年度 伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：すべての子どもたちが学べる『居場所』を！

法人・団体名：KADOMA 中学生勉強会

作成者 氏名：八上 真也

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

KADOMA 中学生勉強会では、活動拠点である門真市の子どもたちの取り巻く課題等（※以下の参考資料参照）を踏まえ、団体として3つの方針を掲げ、令和5年度の活動を実施した。

- 1) ロールモデルの提供、2) 第3の居場所提供、3) 学習の場（学習指導）提供

※参考資料

KADOMA中学生勉強会 ～課題への対応～

(1) 経済的に厳しい家庭の子ども達が学校外での学習指導を受けられる環境が必要

- 子どもの貧困の指標となる就学援助認定率は全国平均の倍以上となっており、門真市の子どもたちの約3割が子どもの貧困状況にある
- 家計が赤字である割合は3割を超えており、多くの子どもたちが学習塾に通うことができない状況にある

(3) 学習に特化したサポートではなく、学力下位層や不登校生徒にとって「居場所」となる支援が必要

- 全国、大阪府平均を大きく下回る学力レベルを推移しており、一部改善傾向にあるものの依然として府内最低水準の学力レベル
- 市内中学校生徒の不登校率は全国平均を大きく上回っており、クラスで3名が不登校の状況にある

KADOMA中学生勉強会 ～課題への対応～

(2) ロールモデルである大学生と身近に出会うことができる環境が必要

- 保護者の大学進学が府平均を大きく下回っている影響もあり、大学への進学を希望している生徒の割合は府平均より7ポイント低い
- 府内北摂地域に大学が集中しており、門真市は大学がなく、門真市の子どもたちは大学や大学生のイメージを持つ機会が少ない

◆学習指導の場の提供

大学生から教えてもらい、「どうせ無理」と思っている生徒たちがやばいと思えるような状況に気づける場をつくる。



- 無料で参加可能(申込制)
- オンラインとオフラインに指導(講師1名、生徒1～2名)
- 教材・参考書の提供
- 質疑応答(質問)の実施
- 連絡先等の開催

講師の様子

◆第3の「居場所」提供

一時的な「塾」ではなく、大学見学やクリスマス会、遠足などのイベント行事を通して、生徒たちが帰ることができる場所をつくる。



- 学習を強制しない
- 生徒の主体性を重視(カリキュラムや課題なし)
- 体験機会の提供
- 生徒同士の交流機会
- 中学卒業も利用可

クリスマス会

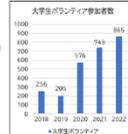
◆ロールモデルの提供

地域に少ない大学進学者と交流する機会を設けることで、生徒たちが多様な価値観や選択肢と出会える場をつくる。




大阪公立大学奨学会

- 府内各地の大学から参加
- (参加者数推移は右のグラフ)
- 毎回15名程度の大学生が参加
- 大学生がマンツーマンで対応
- 大学見学会の開催
- 大学生生活の紹介を実施



大学生ボランティア参加者数

年	参加者数
2018	218
2019	205
2020	376
2021	743
2022	885

※大阪府ボランティア

【令和5年度・参加大学所属一覧】
 大阪公立大学8名、同志社大学3名、京都府立大学2名、関西学院大学2名、関西学院大学2名、近畿大学2名、大和大学2名、京都大学、神戸大学、大阪教育大学、岡山大学、和歌山大学、立命館大学、龍谷大学、関西外国語大学、関西医科大学、大阪大谷大学（各1名）※2023年6月1日現在

項目	具体的内容
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習支援活動：経済的理由等で塾に通えない生徒への学習機会補充 (大学生ボランティア1名に生徒1名～2名の個別指導) ・ 居場所支援活動：イベント行事を開催し、生徒同士や大学生との交流機会提供 ※ボードゲーム大会(7月) 夏祭り(8月) 大学学園祭見学(11月) クリスマス会(12月) 音楽鑑賞(1月) 卒所式(3月)
活動期間	令和5年5月31日～令和6年3月21日
開催場所	門真市民文化会館ルミエールホール研修室・会議室 ※門真市民交流会館中塚荘(上記施設を予約できなかった際に利用)
開催回数	全58回(勉強会・イベント行事含む) 毎週水曜日：43回(18:30～20:00) 隔週土曜日：15回(10:30～17:00 ※9月開講、中3生のみ対象)
対象生徒	30名(中3:20名 中2:5名 中1:5名) <input checked="" type="checkbox"/> 経済的事情により塾に通えていない生徒 <input checked="" type="checkbox"/> 学校の学習についていけない生徒 <input checked="" type="checkbox"/> 様々な体験機会の少ない生徒
応募生徒数	57名応募(定員30名) ※申込時に家庭の経済状況(公的支援の受給状況等)や配慮事項を聞き取り 経済的状況等を総合的に判断し、生徒の参加を決定しています。
学習支援員	大学生ボランティア33名登録(毎回15名前後参加) 大阪公立大学8名 同志社大学3名、京都府立大学2名、関西大学2名、関西学院大学2名、京都女子大学2名、近畿大学2名、大和大学2名、京都大学、神戸大学、大阪教育大学、岡山大学、和歌山大学、立命館大学、龍谷大学、関西外国語大学、関西医科大学、大阪大谷大学(各1名)

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

◆中3生全員が志望校に合格

中3生 20 名が高校受験に挑戦し、無事に全員が志望する高校に進学をできた。

参加する前と後で成績の変化について調査をしたところ「成績があがった（すこしあがった含む）」と回答した生徒は 85%（17/20 名）に及び、中学生勉強会での成果が現れた結果となった。

10 月には有料塾経営者（ゼミ学習教室：小島先生）をお招きし、進路相談会を実施。大阪府独自の私立高校無償化や奨学金、特待生制度について説明をいただき、生徒・保護者らに情報提供を行った。

◆参加生徒の定着率 93% <大学生ボランティアの存在>

インフルエンザなどの流行期もありましたが、全体で毎回 9 割程度の出席率（体調不良除く）となった。参加している生徒らは、学習意欲が低く、学力レベルも高くない（ほとんどが平均以下）ものの、継続して参加することができたのは、大学生の存在がモチベーションになったと考えている。

（生徒アンケートから）

ボランティアの大学生とどのような話をするが多かったですか（複数選択可） N = 27

1. 勉強の話（テストや受験など）	24 (88%)
2. 中学校の出来事について（部活やクラスのこと）	20 (74%)
3. 趣味（アニメ、漫画、アイドル、ユーチューブなど）	14 (51%)
4. 大学の話	6 (22%)
5. 将来の話	4 (14%)
6. 家族の話	3 (11%)

◆元生徒が大学生ボランティアに

団体として活動 6 年目を迎え、かつて勉強会に参加していた中学生が大学生となり、大学生ボランティアとして還ってきてくれました。6 年前に夢描いていたことが現実となりました。門真の子どもたちに、学習のサポートをするとともに、良きお兄ちゃん、お姉ちゃんとして将来の「ロールモデル」像を提供してくれました。

◆生徒募集方法の再考（課題・反省点）

生徒募集方法については、インターネット申込を採用した成果もあり、定員（30 名）を大幅に上回る 57 名の生徒から応募があった。申込時に生徒の困窮度を可視化するなどの工夫も行ったが、当会の活動の趣旨等が生徒・保護者に伝わっていなかったのではないかとこの場面がしばしば見られた。

市教育委員会の事業であるとの誤解、また応募のあった 57 名の生徒のうち、当会の支援対象者でない生徒（既に有料塾に通塾中、基礎学力のある生徒など）からの申込もあり、次年度以降は明確に対象者を記したうえで募集を行うとともに、当会の説明動画を視聴したうえで申込する仕様に変更を行っていききたい。

◆高校生・大学生による社会貢献のモデルとして（今後への発展性）

KADOMA 中学生勉強会は、大学生が自発的に始めたものであり、資金も人の繋がりもない中で、まさにゼロから立ち上げた活動である。SNS やホームページ等を駆使して活動を拡げ、6 年間活動を継続してきた。立ち上げや社会貢献についての相談も随時対応しており、今年度も関西大学高等部、相愛高校や千里高校の高校生から社会貢献に関連した研究の協力、関西大学や立命館大学の学生団体から無料学習支援の活動立ち上げの相談にも応じ、当会の活動をモデルに他の地域や他団体への普及も積極的に協力している。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

参加した生徒・保護者・大学生ボランティアのメッセージを一部紹介。

<生徒メッセージ>

「いつも優しく教えてくれてありがとうございました！水曜日、土曜日にルミエールホールに行くと、いつも明るい大学生の方たちがいて、私も気持ちが明るくなりました。この勉強会で教わったこと忘れません（中3）」

「いつも勉強じゃない話を聞いて困っていることを聞いてくれてありがとうございました。〇〇さんのおかげで困っていることがなくなったり、勉強が楽しくなってきた、ルミエールに行くのが楽しくなってきた勉強もはかどりました。1年前は遠いな～とか思っていたのですが、楽しくなってきた、行く道が楽しくなっていました。〇〇さんのおかげです。1年間ありがとうございました。またルミエールに通いたいです。（中2）」

<保護者メッセージ>

「企業や大学、地域の方々の皆様、毎回ジュースやお菓子、そして赤本参考書、本当に有難うございました。我が家は生活が厳しいので塾にはお金がかけられませんでした。でも息子は家の勉強だけでは受験に追い付かず、自分ひとりでするには限りがあるので、このような機会を作って頂き、たくさんのご支援いただき感謝の気持ちいっぱいです。本当にありがとうございました。代表者の方、大切な企画を有難うございました。（中3保護者）」

「子供達に勉強できる場所、機会を作って下さり、ありがとうございます。毎回のジュースやお菓子、「こんなもらえた」「好きなおやつやった」と喜んでいました。一年を通して楽しいイベントを考えていただいて、普段は見ることのない大学見学など良い経験をさせてもらいました。いつも裏で支えて下さっている皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。（中3保護者）」

<大学生ボランティアメッセージ>

「浮かない顔をして勉強会に来た中学生たちが、幾分か明るい顔をして帰っていく。そういった正真正銘の「居場所」となっていたのではないかと感じます。そのような「居場所」をつくることができたのも、ひとえに皆様のご支援のおかげです。ありがとうございます。私は昨年度からボランティアとして参加させていただいております。参加する前は、中学生に頑張っ勉強を教えなくてはいけないと肩に力が入っていたのですが、いざ参加しはじめると、勉強を教えるのはもちろんのこと、いかに楽しく勉強してくれるかを考えるようになりました。同時に、中学生と一緒に勉強したりおしゃべりしたりすることで、むしろ私のほうが元気をもらっていたようにさえ感じます。（神戸大学3年Kさん）」

「大学生という、大人と子どもの狭間にある自分が、生徒たちと接するときが一番大切にしていたのが、先生と生徒ではなく、友達のような関係になることでした。初めは、私なんか勉強を教えられる自信がない、とだけ思っていました。しかし、様々な問題を抱えてる子たちを対象としたこの活動は、塾ではなく居場所づくりの場であることが大事だと感じるようになりました。イベント毎にプレゼントや食べ物も楽しみに来てくれました。みなさんのご支援のおかげです！ありがとうございました。（関西外国語大学4年Nさん）」